

し、グリーンツーリズム、ブルーツーリズムにジオツーリズムを加えた新たな観光振興の面では課題もあり、波及効果が表れるまでにはもう少し時間がかかると考える。

教育のブランド化を主

体とした将来的なビジョンの策定については、町と推進協議会で十分検討した上で進めていきたいと考えている。今年9月にカナダで開催される第6回ジオパーク国際ユネスコ会議において、八峰白神ジオパークの取り組みを発表する場を得ることができ、国内外に八峰町をアピールできる良い機会だと考える。世界認定申請については、日本ジオパーク委員会から出された課題の解決を最優先させながら、地域に根ざした活動展開を図り、

八峰白神ジオパークとして十分に成果と実績を上げたうえで検討課題にしたいと考えている。

### 意見5

#### 農林水産物加工施設について

指定管理委託料が毎年予算計上されているので、ビジョンを持った営業の展開を充実すべきである。

### 回答

農林水産物処理加工施設で製造されている「塩」についてはなかなか他の地域の商品と差別化できずに、その結果売り上げ数が減少傾向にある。また、「塩もろみ」については、利用者からの評価が高く、徐々に取扱業者の拡大が図られ、売上額も伸びてきている。全体としては、売上額が当初計画を下回る結果

で推移しており、町としては、開業初期の経営状況を支援すべく、指定管理者である八峰白神自然食品(株)に対して、指定管理委託料として平成22年、24年までは毎年400万円を、平成25年度は300万円を支出し、平成26年度も300万円を予算計上している。会社に対してはできるだけ早い自立を促すために、運営体制の見直しや計画性を持った営業展開を求めていく。町も県総合食品研究センターや関係機関と連携しながら、塩、塩もろみの販路開拓に努める。



### 意見6

#### 町営医科診療所の常勤医師の確保に努めること。

### 回答

町営医科診療所は、昨年5月から非常勤医師により、週4日の診療体制で行ってまいりましたが、患者の確保と施設の有効利用を図るため3月からつばきさかクリニックスの椿坂医師のご協力を得て、水曜日に埴川分院を再開し、週5日体制としている。

本院での診療は、月曜日に三田医師、火曜日に椿坂医師、木曜日に秋田大学の八木医師、金曜日に医師会病院の田中医師が担当することとなっている。

平成25年度の患者数は、4月の休診時期を合わせ対前年比4割程度となっ

ており、これに伴う診療報酬収入も厳しい状況となっている。週刊日本医事新報(日本医事新報社刊)に医師募集広告を掲載したほか、町ホームページへ医師募集のお知らせを掲載など、昨年5月からインターネットを利用し、病医院専用求人サイト、自衛隊除隊者・OB向け求人サイトへ常勤医師募集広告を掲載しましたが残念ながら問い合わせはない。

秋田県では、医学生に

県内の医療機関に勤務することを条件に修学資金を貸与しており、平成20年から開始されていた平成28年度には県内の公立病院への医師の派遣が可能になることから大いに期待しているところである。常勤医師の確保につき

ましては、医師不足の中、非常に厳しい状況下ではあります。秋田県、能代市山本郡医師会、現在非常勤医師を派遣していただいている能代山本医師会病院や秋田大学付属病院と緊密に連携をとりながら、情報収集に努め、引き続き全力で取り組んでいく。

### 意見7

#### 八峰町の保育所運営計画を作成し示すこと。

### 回答

子ども園の運営については、下記のとおり計画し、推進していくものとする。

- 一 保育・教育の充実
- ・認定子ども園への移行の計画
- 八森地区統合子ども園への開園を平成26年11月

とし、認定子ども園への移行について、検討していく。平成27年28年において県の認定子ども園サポート事業を活用しながら、指導員の研修指導、保育参観等を多く実施し、本審査資料整備を行い2年間の認証期間を経て、認定子ども園に移行する計画とする。

### 二 運営に効率化

・峰浜地区の子ども園の統合の計画

八森地区に比べ、両園とも建築経過年数が少ないことから、老朽化がそれほど進んでいないものの、児童数の減少や運営の効率化を図るため、統合について検討する必要がある。八峰町小中学校の適正化の実施に平行し、統合について検討を進めていく。

### 三 保育の充実の推進

・保育を必要とする児童全てが入園できる体制を維持していきます。

画すると共に、少人数保育について検討する。

共働き世帯の増加や就業形態の変化、核家族化の進行により保育ニーズの高まりを考慮し、平成31年までの入所児童数を想定。0、3歳児は出生数は減少するものの、保育所の入所希望は高いものと想定し、特に0、1歳児の入所児童数が増える

質の向上を図り、保育士数については、配置基準に沿った計画数に加え、必要に応じ確保に努める。

### 意見8

#### 医療給付費・介護給付費軽減を図るための予防対策を強化すべき。

### 回答

生涯にわたり健康で生き生き生活することは重要なこと。近年の医学の進歩や生活環境の改善によって、日本は長寿国となったが、医療費等、社会保障費はこの20年で倍以上に増えている。

八峰町においても高齢化や医療費等の増と医療給付費等を減らす総合的な対策が必要となっており、平成21年に策定され

た健康はつぼう21は総合振興計画における「笑顔がこぼれる やすらぎのまちづくり」として位置付けられる。目的は、町民が健康でいきいきと暮らせるように取り組みやすい健康づくりを推進すること。「元気に年寄ること」である。ユニカール大会、チャレンジデーなど各種大会を開催し、軽度な運動を取り入れることで介護度の重要化を防ぐこと。平成25年度運動教室では受講者自らが団体を立ち上げて、八峰町スポーツクラブに加盟するなど、生涯スポーツを通して定期的に活動する団体も増えている。「生きがいづくり」を基本とした各種事業を実施することで、医療費等の軽減に積極的に努める。